

日

## 平成20年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽東中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるために、「開かれた学校づくり」を推進し、本校の状況や生徒の実態を保護者や地域の皆様に十分御理解いただく必要があります、このような取り組みを通して、学校・家庭・地域が一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成20年度「全国学力・学習状況調査」における本校の生徒の学力や学習状況の概要について、以下の公表します。

また、調査結果は、学習の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策なども併せて掲載します。

### I 調査の概要

#### 1 目的

ア 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

イ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

ウ 各学校が児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

#### 2 調査期日

平成20年4月22日(火)

#### 3 調査対象

第3学年

#### 4 調査内容

##### (1) 教科に関する調査

① 国語A, 数学A (主として「知識」に関する問題)

② 国語B, 数学B (主として「活用」に関する問題)

##### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

① 生徒に対する調査 ② 学校に対する調査

#### 5 本校の参加状況

生徒数

① 国語A 244人, 国語B 244人

② 数学A 245人, 数学B 245人

#### 6 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2) 本校の傾向等を分かりやすく示し、指導の工夫・改善に生かすために分類・区分別の平均正答率を公表した。

(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「全体的な傾向」、

「分類・区分別の傾向と課題」、「指導の工夫・改善の方向性」などの分析を併せて記載した。

##### ※用語の説明

○平均正答数・・・児童生徒の正答数の平均。

○平均正答率・・・平均正答数を百分率で表示。

・国語A、国語B、数学A、数学Bごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率(概数)。

・学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、設問ごとの平均正答率は、それ

## II 調査結果の概要

### 【国語】

#### 《全体的な傾向》

- ・国語A（知識）の平均正答率は全国平均とほぼ同様である。正答数の分布状況は26問が全国平均より大変高い。
- ・国語B（活用）の平均正答率は全国平均とほぼ同様である。正答数の分布状況は4問・

#### 《分類・区分別集計結果》

##### (1) 国語A(設問数34問)

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	5	80.9	81.2	80.1
	書くこと	2	59.2	58.7	55.2
	読むこと	9	68.9	71.0	71.0
	言語事項	18	75.7	75.3	75.2
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	1	81.6	85.1	87.3
	話す・聞く能力	5	80.9	81.2	80.1
	書く能力	2	59.2	58.7	55.2
	読む能力	9	68.9	71.0	71.0
	言語についての知識・理解・技能	18	75.7	75.3	75.2
問題形式	選択式	21	73.2	72.5	71.3
	短答式	13	74.4	76.5	77.4
	記述式	0			

※1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

##### (2) 国語B(設問数10問)

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	0			
	書くこと	4	45.1	46.3	46.7
	読むこと	10	61.1	61.6	60.8
	言語事項	1	59.8	60.4	60.5
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	45.5	46.9	46.9
	話す・聞く能力	0			
	書く能力	4	45.1	46.3	46.7
	読む能力	10	61.1	61.6	60.8
	言語についての知識・理解・技能	1	59.8	60.4	60.5
問題形式	選択式	6	71.1	71.8	70.3
	短答式	0			
	記述式	4	45.1	46.3	46.7

※1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

## 《分類・区分別の傾向と課題》

●…課題があるもの

### 【話すこと・聞くこと】

○A 領域の平均正答率は80.9%で、他の領域と比較してとても高い。全国平均との比較

では0.8%ポイント高い。

### 【書くこと】

○A 領域の平均正答率は59.2%で、全国平均より4ポイント高い。適切な段落を設けて、

論理的な文章にする設問の正答率は70.9%で、全国平均とほぼ同じである。

●B 論理の展開に着目し、評価・批評する設問の正答率は47.5%で全国平均より8.2ポイ

ント高いが、この領域では最も低い。

### 【読むこと】

○B 領域の平均正答率は61.8%で全国平均よりやや高い。特に登場人物の人間関係を明らかにしたり、レポートの特徴や工夫を捉えたりする設問の正答率は81.1%で、この領域で最も高く、全国平均より2.8ポイント高い。

●A 領域の平均正答率は68.9%で、全国平均よりやや低い。特に文章の展開の仕方を読み取る設問の正答率が37.7%で全国平均より7.7ポイント低い。

### 【言語事項】

○A 領域の平均正答率は75.7%で、全国平均よりやや高い。漢字の読み書きの6問の

正答率は82.3%で、全国平均を1.7下回っている。また、漢字の書きは無解答率は

10%を超え、正答率の差がはっきりしている。

## 《国語に関する質問紙調査の状況》

### 【生徒質問紙】

○ 「国語の授業の内容はよくわかりますか」に対する肯定的な回答の割合は73.1%であり、全国平均より6.3ポイント高い。

○ 「国語の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答の割合は62.1%であり、全国平均より5.2ポイント高い。

○ 「新しく習った漢字を実際の生活で使おうとしていますか」に対する肯定的な回答の割合は61.3%であり、全国平均より3.0ポイント高い。

○ 「国語の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答の割合は、88.6%であり、全国平均より1.3ポイント高い。

● 「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりする」に

対する肯定的な回答の割合は37.5%であり、全国平均より5.4ポイント低い。

## 《国語における指導の工夫・改善の方向性》

### 【話すこと・聞くこと】

・ 課題について話し合う機会を多く設けるとともに、目的に応じて資料を読み、自分の考

えを伝え合うような学習活動を工夫し、自分の考えを深める機会を数多く設定する。

### 【書くこと】

・ 必要な情報を選んで自分の意見の根拠として取り上げ、伝えたいことを明確に書くこと

ができるように繰り返し取り組む場を設ける。

### 【読むこと】

・ 複数の教材文を比較して読み、書かれている情報の中から必要な部分や考えの根拠とな

る部分を抜き出したり、整理したり活動から段落相互の関係を考えられるようにする。

## 【数 学】

### 《全体的な傾向》

- ・ 数学A(知識)の平均正答率は、県平均よりやや高い。正答数の頂点が全国、県と同じ33・34問であるが、29・35問の分布の割合が高いことから、中央値が23.0とずれたと思われる。
- ・ 数学B(活用)の平均正答率は全国、県平均とほぼ同じである。正答数の分布状況は8問が高く、県平均・全国平均を大きく上回っている。

### 《分類・区分別集計結果》

#### (1) 数学A(設問数36問)

分 類	区 分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	数と式	12	67.9	67.3	68.0
	図形	12	61.8	63.5	62.7
	数量関係	12	59.1	60.4	58.6
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	0			
	数学的な表現・処理	17	62.2	63.1	62.5
	数量・図形などについての知識・理解	19	63.7	64.3	63.6
問題形式	選択式	16	63.3	62.8	61.8
	短答式	20	62.7	64.5	64.1
	記述式	0			

※1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

#### (2) 数学B(設問数15問)

分 類	区 分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	数と式	3	53.2	55.9	54.2
	図形	3	59.6	57.4	57.6
	数量関係	9	43.4	43.9	44.7
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	13	46.4	47.0	47.0
	数学的な表現・処理	2	62.7	62.3	63.1
	数量・図形などについての知識・理解	0			
問題形式	選択式	5	54.4	54.8	55.2
	短答式	4	62.9	62.6	62.5
	記述式	6	34.1	35.1	35.3

※1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

【数と式】

- A 連立方程式2問の平均正答率は約79%で、県平均より約4%高い。
- B 領域の平均正答率は52.1%で、全国平均、県平均とほぼ同じである。特に式の意味に即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明したり、問題解決の見通しから数学的な表現を用いて説明したりすることに課題がある。

【図形】

- B 証明の方針を立てて根拠を考える問題の正答率は68.2%で、全国・県平均を約5%上回っている。
- A 図形の一部と対称の中心が与えられたときに、点対称な図形を完成させる問題の正答率は、全国、県平均より2~4%低い。円錐の体積を底辺が合同で高さが等しい円柱の体積との関係から理解する問題が課題である。

【数量関係】

- B 領域の平均正答率は43.4%で、県平均とほぼ同じだが全国より1.3%低い。特に表やグラフのデータをもとに求める問題では正答率が10%台と低く、無解答率が62%と高く、事象を数学的に解釈し問題解決する方法を数学的に説明する問題に課題がある。

【その他】

- B 全問中3問において無解答率が30%を超えている。

《数学に関する質問紙調査の状況》

【生徒質問紙】

- 「数学の授業の内容はよくわかりますか」に対する肯定的な回答の割合は68.6%であり、全国平均より3.1%、県平均より1.1%高い。
- 「数学の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答の割合は58.8%であり、全国平均より6.0%、県平均より6.0%高い。
- 「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」に対する肯定的な回答の割合は39.2%であり、県平均より1.6%高く、全国平均より4.7%高い。
- 「数学ができるようになりたいと思いますか」に対する肯定的な回答の割合は89.8%であり、全国平均より0.9%高いが、県平均より0.7%低い。
- 「数学の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答の割合は78.8%であり、全国平均より0.7%高く、県平均より1.2%低い。
- 「数学の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」に対する肯定的な回答の割合は67.8%であり、全国平均より4.4%高く、県平均より3.3%高い。

《数学における指導の工夫・改善の方向性》

【数と式】

- ・正の数と負の数の計算や文字式の計算など、基本的な計算のしかたについて十分理解を深めた上で、反復練習を行い、より確実な定着を図る。
- ・条件にあった式を作るなど、問題解決の見通しから数学的な表現力を高めるために、文字式の知識や技能を活用して身近な事象や数量の関係などをとらえる機会を充実する。

【図形】

- ・図形の位置関係や基本的な性質の理解を深めるために、観察や実験、具体物操作やコンピュータによるシミュレーションなどを積極的に導入し、実感が伴う、視覚的に理解する活動を一層充実する。

【数量関係】

- ・日常的な場面の事象をグラフにしたり、グラフから情報を読みとったりする活動を多く取り入れ、関数的な見方考え方に慣れ、数学的に処理する力を高める。

【その他】

- ・より効果的な習熟度別学習の工夫改善とともに、授業での学習のしかたの徹底、宿題や課題など家庭学習の充実を図ることで、基礎・基本の確実な定着をねらう。
- ・「分かる授業の展開」を一層推進し、生徒の興味や関心意欲を高めるために、数学的な活動や問題解決的な学習を積極的に取り入れる。

## 【質問紙調査】

### 生徒質問紙

#### 《主な状況》

- 「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は71.0%で、全国平均を9.1%上回っている。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は61.7%で、全国と比べて1.7%高い。
- 「新聞やテレビのニュースに関心がありますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は74.6%で、全国平均と比べて10.5%と大きく上回っている。
- 「家で自分で計画を立てて勉強していますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は39.8%で全国平均と比べて5.6%高く、県平均より6.9%高い。
- 「動物を飼育したり、花や野菜を育てたりしたことがありますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は78.4%で、全国平均と比べて8.5%高い。
- 「学校の授業以外に普通（月～金曜）、1日当たりどれくらいの時間勉強をあいますか」において、「3時間以上」の回答は5.7%で、全国に比べて4.5%低いが、「2～3時間」の回答は28.2%で全国より2.7%高い。どちらも県平均を上回っている。
- 「学校のきまりを守っていますか」に対する肯定的な回答は88.6%で、全国と比べて1.2%高い。
- 「総合的な学習の時間」に関する3つの質問すべてにおいて、肯定的な回答の割合は、全国と比べて低く、特に「『総合的な学習の時間』の授業では、新しいことが発見できますか」は、38.4%で全国平均と比べて、9.8%低い。
- 「朝食を毎日食べていますか」に対する肯定的な回答の割合は90.2%で、全国と比べて1.7%低い。
- 「携帯電話で通話やメールをしていますか」に対する回答の割合は73.0%で、全国平均を15.9%大きく上回り、さらに県平均も15.7%上回っている。
- 「家で学校の宿題をしていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は64.9%で、全国と比べて15.3%低い。
- 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」に対する肯定的な回答の割合は29.4%で、全国平均と比べて7.5%低い。

### Ⅲ 今後の予定

市が作成した『学習指導の工夫・改善のために』（指導資料）を参考に「学習内容定着度調査」及び「学習と生活についてのアンケート（意識調査）」の結果と「全国学力・学習状況調査」の結果を併せて、「本校における学習指導の工夫・改善」を作成する。

- ・ 公表時期 平成21年4月（予定）
- ・ 公表方法 保護者会資料、ホームページ等

